

津市立ハツ山小学校だより

この学校にわたしたち

2023. 7. 14

N022

じっくりと関わることの大切さ



1990年以降に生まれた世代をZ世代といいますが、この世代はデジタル機器に囲まれて育ったため“タイパ”（タイム・パフォーマンス＝時間対効果）を大切にするとされています。例えば検索はスマホ、情報はTwitterやInstagram、動画はTikTokなどの短いものを好み、長い動画は倍速で見たり、複数のコンテンツを同時に視聴したりすることも…。そこには自分の時間を大切にしたいとの思いが

あると言われます。言わずとも私はZ世代ではありませんが、この感覚はとてもよく分かります。

ある日の昼休みに低学年の児童が校長室に入ってきてたまたまおいてあった実験用の三角フラスコの目盛りを見て「これってdlってこと？」と聞いてきました。私は「この子は算数で水のかさの学習をしたのだな」と思い、とても嬉しく感じました。「すごいね、よく気が付いたね。これはmlという単位で給食で飲んでいる牛乳パックにも書いてあるよ」と伝えました。その子は「じゃあ、今日のヨーグルトのカップはどれくらい入るのかなあ？」と目を生き生きさせて話していました。教室で学んだことが生活の場でつながるこういった経験の積み重ねが子どもたちの学びの意欲につながっていくことと思います。夕方、この子の担任と話していた時、担任から「毎日、毎日、マスや牛乳パックで何倍かを測り続けたんです。きっとその経験が記憶として残っていたのですね」と聞きました。仕事における効率化は大切だと思いますが、学校教育においてはじっくりと時間をかけて学習していくことも大切なのだと改めて気付かされました。

子どもは学びの意欲に満ちている

朝の校長室です。子どもは私の机の上にあるクリップケースにクリップがくっついていることに気が付きました。クリップが列車のようにつながって出てきます。クリップをくっつけたり、はなしたり…表情は真剣です。いろいろなことを考えながら遊んでいます。今日はクリップケースでしたが、ホチキスを開いて構造をじっと見ている子もいます。ブルーレイディスクプレーヤーのトレイが出たり、入ったりすることに興味をもっている子もいます。私は何も教えず、黙ってみています。子どもは学びの意欲に満ちている…私はいつもそう思います。

